

第74回

正倉院展

令和4年10月29日(土)～11月14日(月)全17日間

会場:奈良国立博物館 東新館・西新館

※会期中無休

前売日時指定券のみ、当日券の販売はなし

今年のみどころ…

本年は繊細で華やかな文様が施された「漆背金銀平脱八角鏡」などの工芸品のほか、黄熟香(蘭奢待)と並んで名香の誉れ高い「全浅香」が出陳。聖武天皇と光明皇后の娘・称徳天皇にまつわる「銀壺」にも注目。
また奈良時代の装いに関連する宝物が多く出陳されるのも特徴。犀角や象牙といった珍しい素材を用いた精密な細工を施した装身具の数々には目を見張る。当時盛んに営まれた法会に関連する伎楽面や法具も見逃せない。
そのほか正倉院における保存整理の先駆けとして象徴的な「錦繡綾絶等雜帳」などの染織品を通して現代に至る宝物伝承の取り組みにも思いを馳せたい。

展示宝物:59件
(北倉9件、中倉26件、南倉21件、聖語蔵3件)
うち初出陳8件
特別協力:読売新聞社

9時～18時
※金・土・日曜日、祝日(11/3)は20時まで
※入館は閉館の各60分前まで

一般 2,000円
高大学生 1,500円
小中生 500円

チケット取り扱い
9/26(月)10時～販売開始
■ローソンチケット [Lコード:58885]
https://l-tike.com/

奈良国立博物館でのチケット販売はなし
※チケット売り切れの場合はご了承ください

■奈良国立博物館
住:奈良市登大路町50(奈良公園内)
NTTハローダイヤル:050-5542-8600
交通:近鉄奈良駅下車徒歩約15分
または、JR・近鉄奈良駅から市内循環バス外回り「永室神社・国立博物館」下車すぐ

https://www.narahaku.go.jp/ 正倉院展公式サイト https://shosoin-ten.jp/

現在では『国家珍宝帳』記載の「白石鎮子」とは別物と考えられていて正確な用途も不明らしい…

沈香はジンチョウゲ科の樹木の幹に樹脂などが沈着してできた香木だよ

主な出陳宝物紹介

(画像提供/宮内庁正倉院事務所)

伎楽面力士 (楽舞の面) ◆ざがくめん りきし

伎楽に用いる仮面。髻を結び、口を閉じて下唇を噛み締める特徴から役柄は力士にあてられる。左耳上半を除いてキリの一材から彫り出し、表面には彩色を施す。近年の調査で、ひげには猪毛を植毛していることが判明した。面裏に墨書があり、天平勝宝4年(752)の大仏開眼会のために将李魚成が制作したとわかる。

縦35.9㎝ 横23.5㎝ 奥行き31.8㎝

漆背金銀平脱八角鏡 (黒漆地に金銀飾りの鏡)

◆しっばいさんぎんへいだつのほかくきょう

天平勝宝8年(756)に光明皇后が東大寺盧舎那仏に献納した品の一つ。八角形に鑄造された銅鏡の背面に黒漆を塗り、金、銀の薄い文様を配し、平脱技法で仕上げる。中央には宝相華文を、周囲には飛鳥や鳳凰、唐草文をあしらう。繊細な文様でありながら、全体として華やかさを感じさせる優美な鏡だ。

長径28.5㎝ 縁厚0.6㎝ 重さ2928.6g

鉄三鈷 (古密教の法具) ◆てつさんこ

鉄製鍛造の仏具。空海による密教請来以前の古密教の儀礼で用いられたと考えられ、中鈷・脇鈷ともに鋭い逆刺を表し、さらに中鈷には把との間に節を付けるなど、古代インドの武器を源流とする釜剛杵の性格が強く表れている。

長さ28.8㎝ 幅11.3㎝ 重さ336.2g

幡は仏教法会で掲げられる旗で、仏堂内を飾る装飾具としても使われるよ!

金銅幡 (金銅製の旗)

◆こんどうのばん

正倉院に伝わった幡の多くが織物製であるのに対し、本品は金属製。法隆寺献納宝物の灌頂幡(東京国立博物館蔵)と共に古代の金銅幡の貴重な遺品だ。幡身には花唐草、亀甲、花卉、双鳥など種々の文様が透彫され、その文様の透かし目などには多くの鈴が付けられている。

長さ170㎝ 身幅15.5㎝



錦繡綾絶等雜帳 (東大寺屏風に貼り交ぜられた染織品)

◆にしきしゅうあやしぎぬなどざつちょう

天保4年(1833)の正倉院宝庫御開封に際して作られた「東大寺屏風」にかつて貼り交ぜられていた染織品。正倉院の染織品に対する初の本格的な整理としても重要な意味を持っている。東大寺屏風は虫損が進んだため、昭和20年代後半に解体され、現在は屏風下地と染織品が別々に保存されている。

〈14号〉縦20.5㎝ 横25.5㎝ 〈14号〉縦21.5㎝ 横20.9㎝

水鳥と考えられていたけど、頭の冠羽や翼の白黒の横斑からヤツガシラと同定されているよ



彩絵水鳥形 (鳥形の飾り具)

◆さいえのみずとりがた

ヒノキの薄板を飛行する鳥の形に切り取った一対の小品。衣服の装飾として用いられた可能性がある。背に緑色、腹に白色、くちばしに赤色を塗り、冠羽・翼・尾にはカケスの初列雨覆という羽毛を貼り付けて横斑を表した上、金箔の小片を貼くという、手の込んだ精緻な細工が美しい。

長さ2.6㎝ 厚さ0.2㎝



力士は呉女に言い寄り追い掛け回していた毘菴を懲らしめる役だそう



平脱とは、漆を重ねる時に、文様の形に切った金銀の薄板を貼り付けて、板に線状の彫り込みを加えて図柄を表し、その上から漆を塗り込めたあとに金銀の部分の漆を削いでみせる技法のこと

金銀平脱皮箱 (金銀飾りの皮箱)

◆きんぎんへいだつのかわばこ

黒褐色地に金銀で表された文様が浮かび上がる豪華な箱である。蓋表は中央に鳳凰、周囲には鳥と花枝を組み合わせて旋回するように配置する。動物の皮をベースに何重にも漆を塗り込めて成形されている。

縦33㎝ 横27㎝ 高さ8.6㎝

いずれも文様部分を蠟で防染を施した後に染料で重ね染めし、文様を染め抜く「ろうけつ染め」の技法が用いられているよ



鸚鵡蔦縵屏風・象木蔦縵屏風 (ろうけつ染めの屏風)

◆おうむろうけちのびょうぶ・ぞうきろうけちのびょうぶ

『国家珍宝帳』に記載される「蔦縵屏風十畳(各六扇)」のうちの2扇。鸚鵡屏風は斉衡3年(856)の宝物点検記録『雑財物実録』に記載される「熊鷹鸚鵡蔦縵屏風」の1扇、象木屏風は同じく「椽地象羊木屏風」の1扇だったと考えられる。

〈鸚鵡〉長さ163㎝ 幅56.3㎝ 本地長154.6㎝ 幅52.5㎝
〈象木〉長さ163㎝ 幅56.1㎝ 本地長154.5㎝ 幅52.5㎝



白石鎮子 寅・卯 (大理石のレリーフ)

◆はくせきのちんす とら・う

四神や十二支が2つずつ絡まり合う様子を浮き彫りで表した大理石製のレリーフ板。正倉院に計8箇が伝わるうちの寅と卯の意匠が表される1枚。西方由来の動物闘争文と中国由来の十二支の融合に東西の文化交流がうかがえる。

縦21.5㎝ 横33.3㎝ 厚さ4.7㎝



全浅香 (香木) ◆ぜんせんこう

正倉院に伝わった大きな沈香。「蘭奢待」(蘭奢待)として著名な黄熟香と共に「両種の御香」と呼ばれる。『国家珍宝帳』に記載された「全浅香一村重大卅四斤」に当たり、東大寺盧舎那仏への献納品であった。表面には大小の切削痕があり、過去に幾度か切り取られたことを物語る。

長さ105.5㎝ 重さ16650g



第16回 あるくん奈良スタンプラリー

奈良の町をめぐり、スタンプを集めてガラポンに挑戦。本年はデジタルスタンプラリーも同時開催！正倉院文様のバッグなど豪華景品を当てよう。「お茶」がテーマのラリーマップにも注目！

10/29(土)～11/14(月) 10:00～18:00

【電子配布】奈良市中心部商店街各店舗、観光案内所など
※公式HP掲載のプリントアウト使用もOK
【抽選】近鉄奈良駅前 行基広場、JR奈良駅前(土日祝のみ)
rally_exec21@machinara.sakura.ne.jp
(はじまりは正倉院展実行委員会)



春日若宮式年造替 奉祝行事

春日大社御宇

20年に一度の式年造替を終え、10月28日に正遷宮が行われる若宮。これを祝って御本殿を間近に参拝ができる八日間初まいりと、境内にて万燈籠が行われる。この機会に若宮の強いご加護を授かりたい。

【八日間初まいり】 10/30(日)～11/6(日) 11月の毎週土曜 9:00～16:00 17:30～20:00 (10/30～11/1,3は午後から)
【奉祝万燈籠】 11月の毎週土曜 9:00～16:00 17:30～20:00 (10/30～11/1,3は午後から)

無料 0742-22-7788 (春日大社)

秋季特別展 地下の正倉院展

—平城木簡年代記(クロニクル)—

平城宮跡資料館

1961年出土の第1号木簡以降、30万点を保管する平城宮・京跡出土木簡の中から各年代を代表するスター木簡約60点を展示。正史には残らない当時の社会の様子や人々の息吹を感じる特別展。

10/15(土)～11/13(日) 9:00～16:30 (16:00最終入館)

無料 月曜 0742-30-6755 (奈良文化財研究所 展示企画室)



周辺イベント



秋季特別展 また!ナニこれ?

—奈良市出土の用途不明品—

奈良市埋蔵文化財調査センター

奈良市内の縄文～江戸時代までの遺跡から出土した資料のうち「用途不明品」に注目した企画展。材質や形状から使い方などを想像しながら楽しもう。

10/1(土)～11/30(水) 9:00～17:00 (16:30最終入館)

無料 10月無休、11月は土日祝(11/3,19,20は開館) 0742-33-1821 (奈良市埋蔵文化財調査センター)



記念特別展 のこった奇跡のこした軌跡

—未来につなぐ平城宮跡—

平城宮いざない館

平城宮跡跡指定100年、奈良文化財研究所設立70年を記念した特別展。戦後の第1次調査から現代に至るまでの調査成果と、それを支えた多分野の専門家集団、奈文研の活動を紹介します。平城宮跡の“奇跡”の“軌跡”をたどる展示。

10/29(土)～12/11(日) 10:00～18:00 (17:30最終入館)

無料 11/14 0742-30-6755 (奈良文化財研究所 展示企画室)

中倉 粉地彩絵几 附 白椽綾几褥

(献物をのせた台)

◆ふんじさいえのき つけたり しろつるばみあやのきじよく

仏前に献物を供えるための台で、天板と同じ大きさの上敷き(褥)が付属する。ヒノキの一枚板で作られた天板上に、花葉形に彫出された華足を付けており、華足を彩る青系・赤系・緑系・紫系の鮮やかなグラデーション(暈縹彩色)が目目を惹く。天板裏面の墨書と貼紙から正倉院に納められる以前は、東大寺千手堂のものであったことがわかる。



縦34.0寸 横38.5寸 高さ9.2寸

同型同大のものがもう1口伝わっており、一対で献納されたと考えられているよ

南倉 銀壺

(大型の銀製の壺)

◆ざんこ

口径42.9寸 胴径61.3寸 総高46.6寸 重量35100g 台重7100g



底が丸くすばまった鉄鉢形の器で、別作りの高台の上に載る。本体、高台共に銀製で、胴の表面には馬に乗った人物が山野で鹿や羊、猪などの獲物を追う様子を刻線て表す。奈良時代の狩猟文の代表とも目される優品だ。本体の底に天神神護3年(767)2月4日の年紀が刻まれ、同日東大寺に行幸した称徳天皇がこの折に献納したと推定される。

同型の鏡が千葉・香取神宮にも伝来し、国宝に指定されているよ

南倉 鳥獣花背円鏡

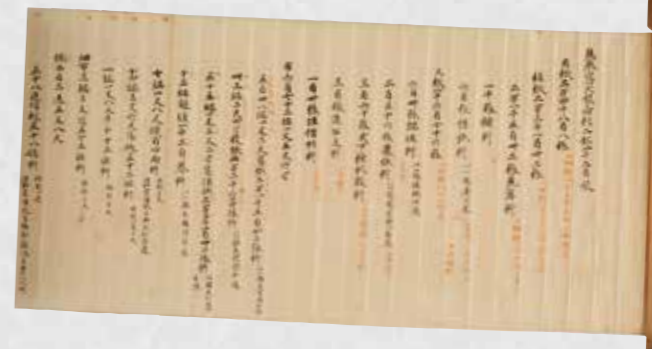
(霊獣と葡萄文様の鏡)

◆ちようじゅうかはいのえんきよう

白銅製の大型の海獣葡萄鏡。鏡の背面には、たくさんの鳥獣と葡萄唐草文様が精密に鑄出されている。いずれの文様もシャープで、保存状態も良好。中国・唐で作られたものとみられる。



径29.7寸 縁厚2寸 重さ5009g



中倉 初出展 続々修正倉院古文書 第四帙第七卷

[二部大般若経用度申請解案] (写経事業の予算書)

◆ぞくぞくしゅうしょうそいうんこもんじょだいよんちつだいななかん [(にほんにきゃきょうようどしんせいげあん)]

天平宝字6年(762)12月16日付けで作成された予算書。奈良時代の官営写経所では同年12月から翌7年4月にかけて『大般若経』1部600巻を2セット、計1200巻を書写する事業が進められた。同書には写経に関わる物品のほか写経従事者への給与や食料など使用予定の数量が詳しく記されている。

正倉院とは…

奈良時代の官庁や大寺には、税で徴収された米や布などを納める正倉が設けられており、この正倉がいくつも集まった区画が正倉院と呼ばれるようになった。しかし、年月とともに東大寺の正倉院内の正倉一棟を除き、他の正倉院はすべてなくなってしまった。現在では、正倉院といえばこの一棟を指す。聖武天皇の遺愛品及び東大寺の寺宝、文書類などが収納され、西宝庫、東宝庫に分け、空調を備えた鉄筋コンクリート製の新宝庫で保管される。

奈良市雑司町129 MAP C-1 0742-26-2811 (宮内庁正倉院事務所) 月～金曜(祝日・年末年始は除く)の毎日10:00～15:00 無料(申込手続き不要) なし ※正倉院展会期中無休、10:00～16:00 (土日祝も公開し、通常より公開時間を1時間延長) ※公開は「正倉」外構のみ



アプリ「iMuT」

全国的美術館・博物館、観光施設などの音声ガイドを制作する、アートアンドパートの公式音声ガイドアプリ「iMuT(アイミュート)」。第74回正倉院展(有料)は10/28～配信予定

配信期間 10/28～ ナレーター 沢城みゆき(声優) 開設時間 約25分

アプリはこちら!



※OSバージョンによってダウンロードできない場合があります ※アプリ内で作品画像の表示なし

奈良国立博物館の会場では入り口で専用ガイド機をレンタル可能(有料)

正倉院展

短歌・俳句コンクール

正倉院にまつわる短歌・俳句を募集中! 天平時代へ思いをはせて詠むも良し。Webでの応募もできるので、気軽に参加してみてください。

対象 ユニバーの部(小学生～高校生) 一般の部

審査員

短歌:上野誠氏(国学院大学教授)、永田紅氏(歌人)、俳句:長谷川龍氏(俳人)、坪内稔典氏(俳人、佛教学名譽教授) 共通:飯田剛彦氏(宮内庁正倉院事務所長)、井上洋一氏(奈良国立博物館長) ほか

賞

短歌、俳句それぞれで各賞を設定(ユニバー一般の両部で各賞を設定) 最優秀賞 1名 賞状、楯、副賞(図書カード1万円分) など

◆受賞者については2023年1月以降に読売新聞紙上およびホームページで発表予定

問い合わせ

読売新聞大阪本社文化事業部 TEL.06-7732-0063(平日午前10時～午後5時)

応募方法

FAX 06-6366-2370

はがき 〒539-0041(住所不要) 読売新聞大阪本社文化事業部 正倉院展短歌・俳句コンクール係 WEBサイトフォーム https://shosoin-ten.jp/



正倉院展をもっと楽しむ!

ミュージアムグッズ

地下回廊無料ゾーンと西新館特設売場で、宝物がデザインされたオリジナルの正倉院紋様グッズを販売。

- 蒔絵しおり(2種) 各550円
- リングノート 440円
- おでかけバッグ 各1,980円
- 手ぬぐい 990円～
- 手鏡(小) 各1,155円
- 手鏡(中) 各1,980円

Museum shop TEL0742-26-3868